

2026年度 第1四半期決算報告



2026年7月29日
日本ゼオン株式会社

P.2	総括	※以降、シクロオレフィンポリマーはCOPと記載します。
P.5	事業環境（為替・主原料推移）	
P.6	業績サマリー	
P.7	セグメント別業績	
P.9	高機能材料	P/L
P.10	高機能材料	セグメント別概況
P.11	高機能樹脂事業	： COPの状況
P.12	高機能樹脂事業	： 光学フィルムの状況
P.13	高機能バインダー材料事業	： 電池材料の状況
P.14	高機能ケミカル事業	： 化学品・電子材料の状況
P.16	エラストマー素材	P/L
P.17	エラストマー素材	： 合成ゴムの状況
P.19	B/S概要	
P.20	C/F概要	
P.22	株主還元予想	

2026年度Q1 連結実績

売上高

1,095億円
YoY+6%

営業利益

163億円
YoY+34%

経常利益

188億円
YoY+57%

親会社株主に帰属
する当期純利益

127億円
YoY+69%

【増減の主な要因】

▶ 売上高

- 高機能材料 : 総じて生産・出荷とも堅調、電池材料とCOPの出荷増でYoY+16%
- エラストマー素材 : ホルムズ海峡封鎖に伴う主原料の調達量見合いでの生産により出荷減も、原価上昇分の販売価格への転嫁が進み、為替円安影響と併せYoY+0%

▶ 営業利益

- 高機能材料 : 上記に加え、光学フィルムの棚卸資産関連費用の減少により YoY+37%
- エラストマー素材 : 上記に加え、前期末在庫の影響によりYoY+31%

▶ 経常利益 : 営業利益増に加え、受取配当金等が発生し増加

▶ 当期純利益 : 経常利益増により増加

2026年度 通期業績予想

売上高

4,050億円
YoY▲2%

営業利益

380億円
YoY+5%

経常利益

370億円
YoY▲8%

親会社株主に帰属
する当期純利益

360億円
YoY▲1%

- ▶ ホルムズ海峡再封鎖、バベルマンデブ海峡封鎖リスク等により今後の見通しは引き続き不透明、
よって当初予想を据え置く
- ▶ 第2四半期以降、四半期単位で業績は振れるおそれはあるが、年単位では吸収可能の見込み
- ▶ 想定される不確実性と対応策

項目	想定される不確実性	対応策
調達	原料価格およびユーティリティコストの乱高下	・価格フォーミュラに含まれない固定費を含む原価上昇分をサーチャージ方式で市場へ転嫁 ・お客様とのコミュニケーション強化により、製品在庫は可能な限り削減 ・不要不急のキャッシュアウト抑止
生産	主原料の調達量見合いの操業による固定費の悪化	
出荷	景気悪化による出荷減、 原料価格乱高下に伴う製品在庫の影響	

P.2 総括

P.5 事業環境（為替・主原料推移）

P.6 業績サマリー

P.7 セグメント別業績

P.9 高機能材料

P.10 高機能材料

P.11 高機能樹脂事業

P.12 高機能樹脂事業

P.13 高機能バインダー材料事業

P.14 高機能ケミカル事業

P/L

セグメント別概況

：COPの状況

：光学フィルムの状況

：電池材料の状況

：化学品・電子材料の状況

P.16 エラストマー素材

P.17 エラストマー素材

P/L

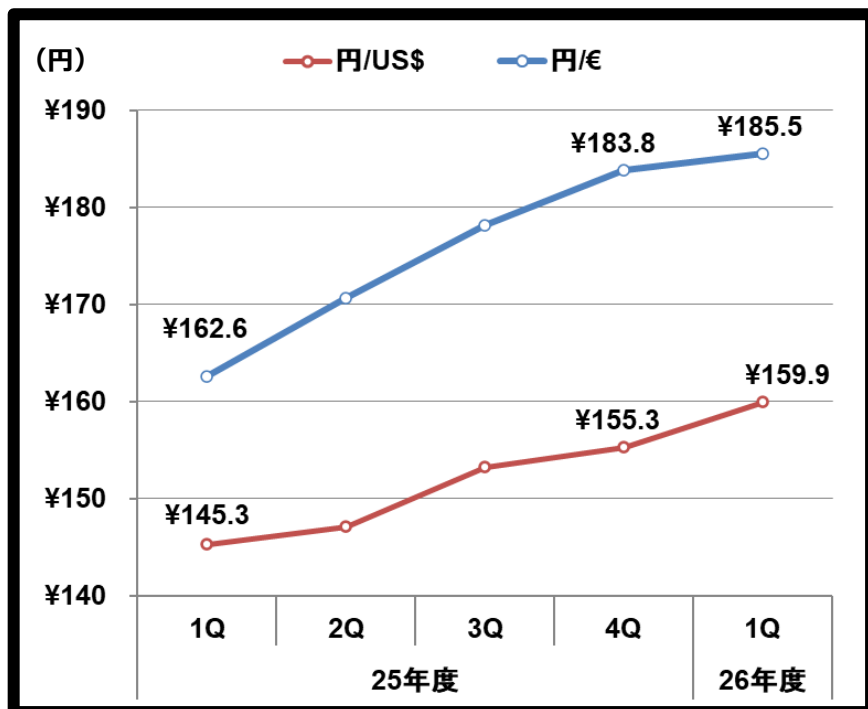
：合成ゴムの状況

P.19 B/S概要

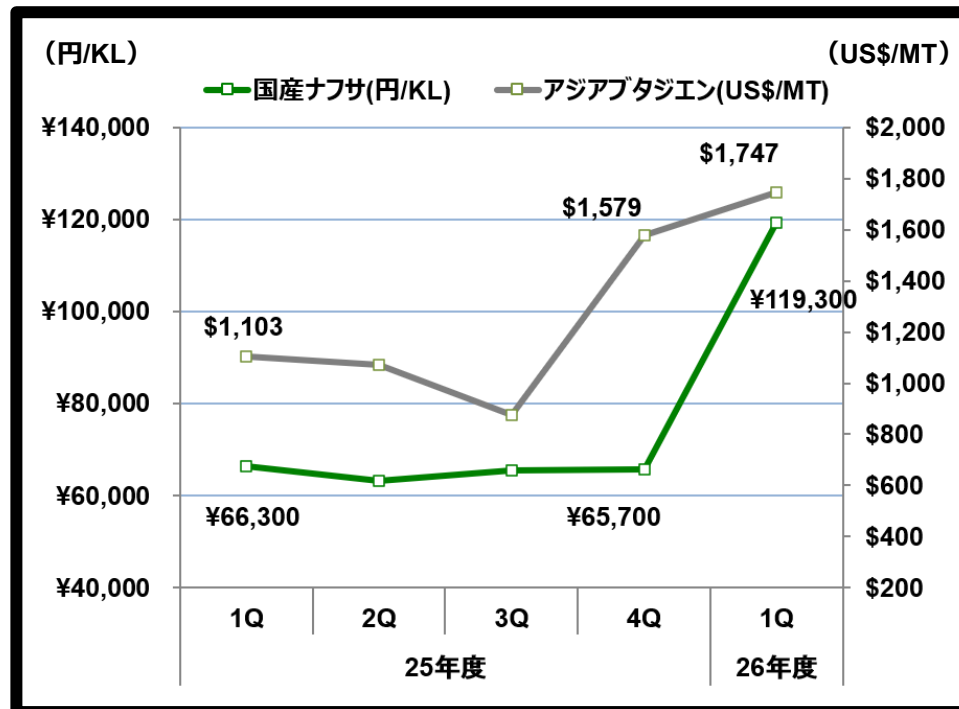
P.20 C/F概要

P.22 株主還元予想

【為替推移】



【主原料推移】



		2025年度 Q1	2025年度 Q4	2026年度 Q1	YoY 変化率	QoQ 変化率
為替	円/US\$	¥145.3	¥155.3	¥159.9	+10%	+3%
	円/€	¥162.6	¥183.8	¥185.5	+14%	+1%
主原料	国産ナフサ/KL	¥66,300	¥65,700	¥119,300	+80%	+82%
	アジアブタジエン/MT	\$1,103	\$1,579	\$1,747	+58%	+11%

※国産ナフサ：2025年度Q1 及び 2025年度Q4 は確報値、2026年度Q1は当社見込値

（単位：億円）

	前年同期	前期	今期	対前年同期	対前期
	2025年度 Q1	2025年度 Q4	2026年度 Q1	YoY 増減	QoQ 増減
売上高	1,031	1,023	1,095	+64	+72
営業利益	121	88	163	+42	+75
経常利益	120	101	188	+69	+88
当期純利益	75	79	127	+52	+48

- 前年同期比 ： 売上高 + 64億円、営業利益 +42億円
- 前期比 ： 売上高 + 72億円、営業利益 +75億円

注1）海外関係会社の2026年1～3月実績がQ1連結決算に反映されています。

注2）2026年度よりジスインフォテクノ株式会社※が連結対象となりました。

※ITの側面から当社グループを支えるシステム会社で、グループ全体のシステム開発、運用、保守を担当

2026年度Q1 業績サマリー（セグメント別）

ZEON

（単位：億円）

【売上高】	前年同期	前期	今期	対前年同期	対前期
	2025年度 Q1	2025年度 Q4	2026年度 Q1	YoY 増減	QoQ 増減
高機能材料	293	304	338	+45	+35
エラストマー素材	581	557	582	+1	+25
その他の事業、消去等	157	162	175	+17	+13
売上高合計	1,031	1,023	1,095	+64	+72

【営業利益】	前年同期	前期	今期	対前年同期	対前期
	2025年度 Q1	2025年度 Q4	2026年度 Q1	YoY 増減	QoQ 増減
高機能材料	74	59	101	+27	+42
エラストマー素材	42	22	55	+13	+33
その他の事業、消去等	5	7	6	+1	▲0
営業利益合計	121	88	163	+42	+75

P.2	総括	
P.5	事業環境（為替・主原料推移）	
P.6	業績サマリー	
P.7	セグメント別業績	
P.9	高機能材料	P/L
P.10	高機能材料	セグメント別概況
P.11	高機能樹脂事業	： COPの状況
P.12	高機能樹脂事業	： 光学フィルムの状況
P.13	高機能バインダー材料事業	： 電池材料の状況
P.14	高機能ケミカル事業	： 化学品・電子材料の状況
P.16	エラストマー素材	P/L
P.17	エラストマー素材	： 合成ゴムの状況
P.19	B/S概要	
P.20	C/F概要	
P.22	株主還元予想	

(単位：億円)

	2025年度 Q1	2025年度 Q4	2026年度 Q1	YoY 増減	YoY 増減率	QoQ 増減	QoQ 増減率
売上高	293	304	338	45	16 %	35	11 %
高機能樹脂	197	190	212	15	8 %	22	12 %
高機能バインダー材料	53	63	75	22	41 %	12	19 %
高機能ケミカル	33	44	45	12	37 %	1	3 %
メディカル他	10	7	6	▲ 4	▲ 40 %	▲ 1	▲ 9 %
営業利益	74	59	101	27	37 %	42	72 %
高機能樹脂	55	43	68	13	24 %	25	57 %
高機能バインダー材料	10	12	26	16	160 %	14	112 %
高機能ケミカル	8	8	9	1	13 %	1	7 %
メディカル他	1	▲ 5	▲ 2	▲ 3	▲ 344 %	3	- %
営業利益率	25%	19%	30%				

サブセグメント区分

高機能樹脂	: COP、光学フィルム
高機能バインダー材料	: 電池材料、トナー
高機能ケミカル	: 化学品、電子材料

高機能材料

売上高 **338** 億円 (YoY+16%、QoQ+11%)

営業利益 **101** 億円 (YoY+37%、QoQ+72%)

高機能樹脂

売上高 **212** 億円 (YoY+8%、QoQ+12%)

営業利益 **68** 億円 (YoY+24%、QoQ+57%)

メモリ不足でモバイル端末向け振るわず、一方でセキュリティカメラと車載向けが堅調で増収増益
前年度に計上した光学フィルムの棚卸資産関連費用等の戻し入力で、営業利益は大幅に増加

高機能 バインダー材料

売上高 **75** 億円 (YoY+41%、QoQ+19%)

営業利益 **26** 億円 (YoY+160%、QoQ+112%)

モバイル端末向けは一服感あるも、EVおよびESS向け電池材料の出荷増で増収増益
なかでも正極材の出荷が増えたことで営業利益は大幅に増加

高機能ケミカル

売上高 **45** 億円 (YoY+37%、QoQ+3%)

営業利益 **9** 億円 (YoY+13%、QoQ+7%)

半導体向け特殊溶剤、エッチングガスのお荷増により増収増益
合成香料は出荷増となるも、市況価格の下落により営業利益は伸び悩む

		YoY	QoQ
当社製品の 出荷動向	光学用途向け		
	医療その他向け		
	半導体用途向け		

- 光学用途向け
中東情勢の影響で一部前倒し出荷あり、通年では前年度並みの出荷を見込む
- 医療その他向け
総じて需要は堅調
- 半導体用途向け
QoQでは前期のまとめ出荷の反動を受けるも、FAB建設に伴い堅調な需要が継続、YoYでは約2割出荷増

		YoY	QoQ
当社製品の 出荷動向	中小型向け		
	大型向け		

- 中小型向け
モバイル端末向けは低調
- 大型向け
大型TV向けシェア拡大により、総じて需要は堅調

		YoY	QoQ
当社製品の 出荷動向	EV向け	↗	↗
	ESS向け	↗	↗
	民生他向け	↗	↘

■ EV向け

欧州の補助金政策を背景に需要回復、中国内需は減少も輸出増で全体増

■ ESS向け

系統用、AIデータセンター用等含め、需要は総じて堅調

■ 民生他向け

モバイル端末向けは低調

		YoY	QoQ
当社製品の 出荷動向	半導体・医療向け		
	合成香料向け		

■ 半導体向け

旺盛な AI 関連投資を背景にメモリーやロジック製品の需要は堅調
QoQは出荷期ズレの影響を受けるも、通年では出荷増となる見通し

■ 合成香料向け

販売ドライブをかけ出荷増も、中国勢との競争激化で市況低迷が継続

P.2	総括	
P.5	事業環境（為替・主原料推移）	
P.6	業績サマリー	
P.7	セグメント別業績	
P.9	高機能材料	P/L
P.10	高機能材料	セグメント別概況
P.11	高機能樹脂事業	： COPの状況
P.12	高機能樹脂事業	： 光学フィルムの状況
P.13	高機能バインダー材料事業	： 電池材料の状況
P.14	高機能ケミカル事業	： 化学品・電子材料の状況
P.16	エラストマー素材	P/L
P.17	エラストマー素材	： 合成ゴムの状況
P.19	B/S概要	
P.20	C/F概要	
P.22	株主還元予想	

(単位：億円)

	2025年度 Q1	2025年度 Q4	2026年度 Q1	YoY 増減	YoY 増減率	QoQ 増減	QoQ 増減率
売上高	581	557	582	1	0 %	25	4 %
合成ゴム	445	427	443	▲ 2	▲ 1 %	16	4 %
その他・消去	136	130	139	3	2 %	9	7 %
営業利益	42	22	55	13	31 %	33	149 %
合成ゴム	42	28	52	11	25 %	24	86 %
その他・消去	1	▲ 6	3	3	353 %	9	- %
営業利益率	7%	4%	10%				

※2026年度より合成ラテックス、化成品は「その他・消去」に包含

■ 合成ゴムの状況

- ・主原料調達見合いの生産で出荷減も、原価上昇分の販売価格への転嫁が進み、為替円安影響と併せて売上高はYoY横ばい、QoQは増加
- ・営業利益は前期末在庫の影響によりYoY、QoQとも増加

		YoY	QoQ
当社製品の 出荷動向	特殊ゴム	➡	➡
	汎用ゴム	➡	➡

■ 特殊ゴム

国内向けを中心に需要は堅調、ホルムズ封鎖の影響なし

■ 汎用ゴム

主原料の調達見合いでの生産で出荷減、輸出スポット玉を絞ることで対応

P.2	総括	
P.5	事業環境（為替・主原料推移）	
P.6	業績サマリー	
P.7	セグメント別業績	
P.9	高機能材料	P/L
P.10	高機能材料	セグメント別概況
P.11	高機能樹脂事業	：COPの状況
P.12	高機能樹脂事業	：光学フィルムの状況
P.13	高機能バインダー材料事業	：電池材料の状況
P.14	高機能ケミカル事業	：化学品・電子材料の状況
P.16	エラストマー素材	P/L
P.17	エラストマー素材	：合成ゴムの状況
P.19	B/S概要	
P.20	C/F概要	
P.22	株主還元予想	

(単位：億円)

総資産6,033億円 (+551)

【流動資産】 +282億円

- ◆ 現預金 +115億円
- ◆ 売掛債権 +25億円
- ◆ 未収入金 +68億円
- ◆ 棚卸資産 +67億円

流動資産
2,858
(+282)

固定資産
3,176
(+269)

【固定資産】 +269億円

- ◆ 有形固定資産 +133億円
- ◆ 投資有価証券 +164億円

【流動負債】 +381億円

- ◆ 買入債務 +99億円
- ◆ コマーシャルペーパー +210億円
- ◆ 未払金等 +72億円

流動負債
1,823
(+381)

固定負債 252 (▲6)

純資産
3,958
(+176)

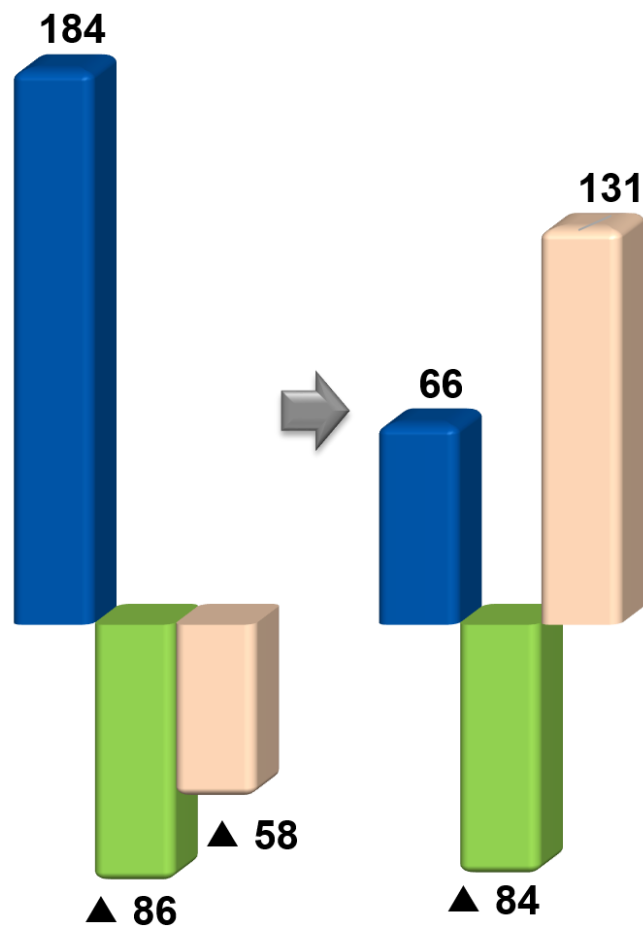
【純資産】 +176億円

- ◆ 自己資本比率 65.5% (▲3.4)
- ◆ D/Eレシオ 0.09 (+0.05)

(単位：億円)

2025年度Q1

2026年度Q1



■ 営業CF ■ 投資CF ■ 財務CF

(単位：億円)

	2025年度Q1	2026年度Q1
営業CF	184	66
投資CF	▲ 86	▲ 84
フリーCF	98	▲ 17
財務CF	▲ 58	131
CF	40	114

【営業CF】 ▲118億円

- ◆ 税前提利益 +76億円
- ◆ 税金 ▲71億円
- ◆ 減価償却費 +6億円
- ◆ 運転資金 ▲241億円
- ◆ 引当金 +20億円
- ◆ その他 +93億円

【財務CF】 +189億円

- ◆ 資金調達 +190億円
- ◆ 配当金 ▲7億円
- ◆ その他 +6億円

P.2	総括	
P.5	事業環境（為替・主原料推移）	
P.6	業績サマリー	
P.7	セグメント別業績	
P.9	高機能材料	P/L
P.10	高機能材料	セグメント別概況
P.11	高機能樹脂事業	：COPの状況
P.12	高機能樹脂事業	：光学フィルムの状況
P.13	高機能バインダー材料事業	：電池材料の状況
P.14	高機能ケミカル事業	：化学品・電子材料の状況
P.16	エラストマー素材	P/L
P.17	エラストマー素材	：合成ゴムの状況
P.19	B/S概要	
P.20	C/F概要	
P.22	株主還元予想	

株主還元方針

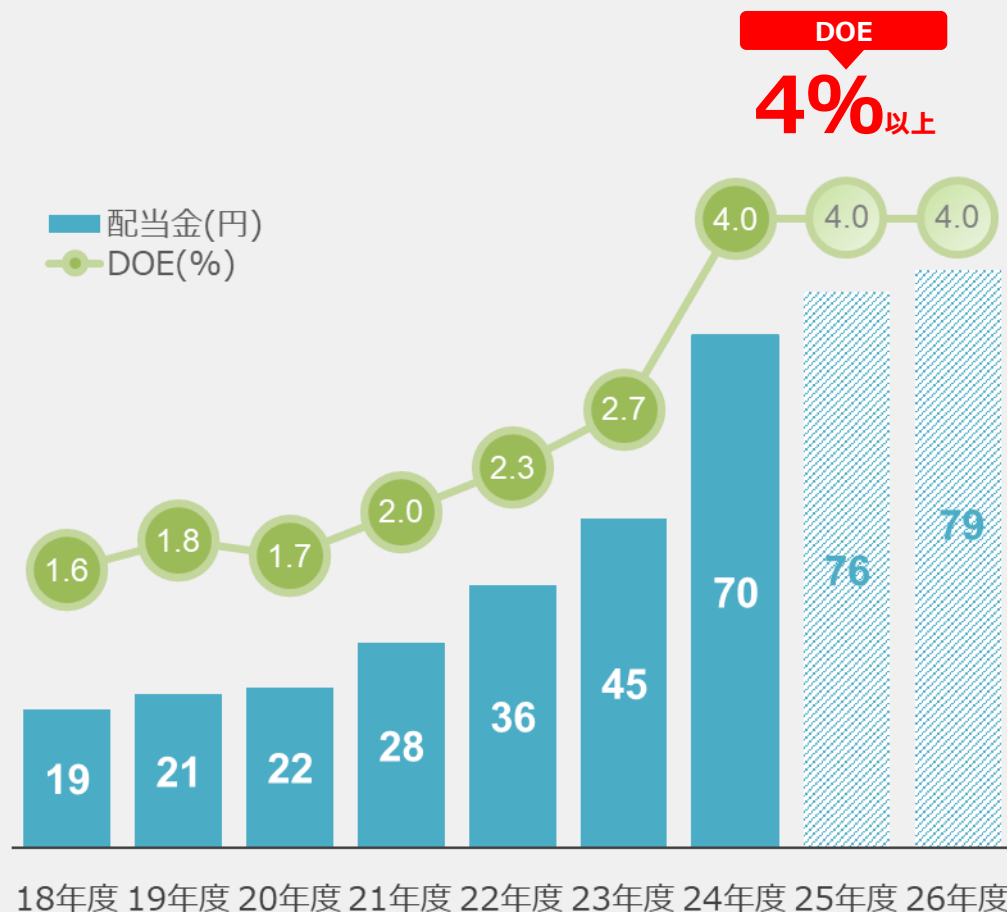
- 1 配当のKPIとしてDOEを採用し、
DOE4%以上とする

- 2 自己株式取得（計画）

24年度－26年度

400億円

- 2024年度 200億円（完了）
- 2025年度 100億円（完了）
- 2026年度 100億円（予定）



- 配当金はDOE4%以上の方針に基づき、2026年度年間79円予想を据え置く(YoY+3円)
- 年間配当額は2010年度から17期連続増配予想
- 2026年度自己株式の取得は時期を精査のうえ実施予定

本資料に掲載されている当社の計画や見通しなどは、現在入手可能な情報に基づき算出したものであり、リスクや不確定な要因を含んでおります。実際の業績等は様々な要因により、大きく異なる結果になる場合があります。

**2026年度
Q2決算発表**

2026年10月29日を予定

※上記の予定は、都合により予告なく変更する場合がございます

以 上

**統合報告書2025年度版
を発行しました
[こちら](#)**

参考：2026年度 セグメント別業績予想

ZEON

(単位：億円)

【売上高】	2025年度	2026年度 業績予想	年間 差異
高機能材料	1,242	1,250	+8
エラストマー素材	2,237	2,195	▲ 42
その他の事業、消去等	641	605	▲ 36
売上高合計	4,120	4,050	▲ 70

【営業利益】	2025年度	2026年度 業績予想	年間 差異
高機能材料	224	280	+56
エラストマー素材	117	85	▲ 32
その他の事業、消去等	23	15	▲ 8
営業利益合計	364	380	+16

- ・中東情勢悪化による今後の見通しは不透明につき、中東情勢影響を含まないベースケースを据え置く
- ・業績予想前提：US\$=150円、€=175円、国産ナフサ/KL=¥63,000、アジアブタジエン/MT=US\$950
- ・営業利益への為替影響（年間）は、1円/US\$：約3億円、1円/€：約1億円、円安により増加

参考：2025年度までのセグメント区分による業績推移 ZEON

(単位：億円)

2023年度 2024年度 2025年度 2026年度

Q1

売上高	3,823	4,206	4,120	1,095
高機能材料事業	1,074	1,216	1,242	338
高機能樹脂	642	793	831	212
高機能バインダー材料	234	225	237	75
高機能ケミカル	156	158	146	45
メディカル他	43	39	28	6
エラストマー素材事業	2,153	2,366	2,237	582
合成ゴム	1,642	1,769	1,727	443
ラテックス	109	142	111	24
化成品	350	403	355	107
その他・消去	52	52	43	7
その他の事業、消去等	596	625	641	175

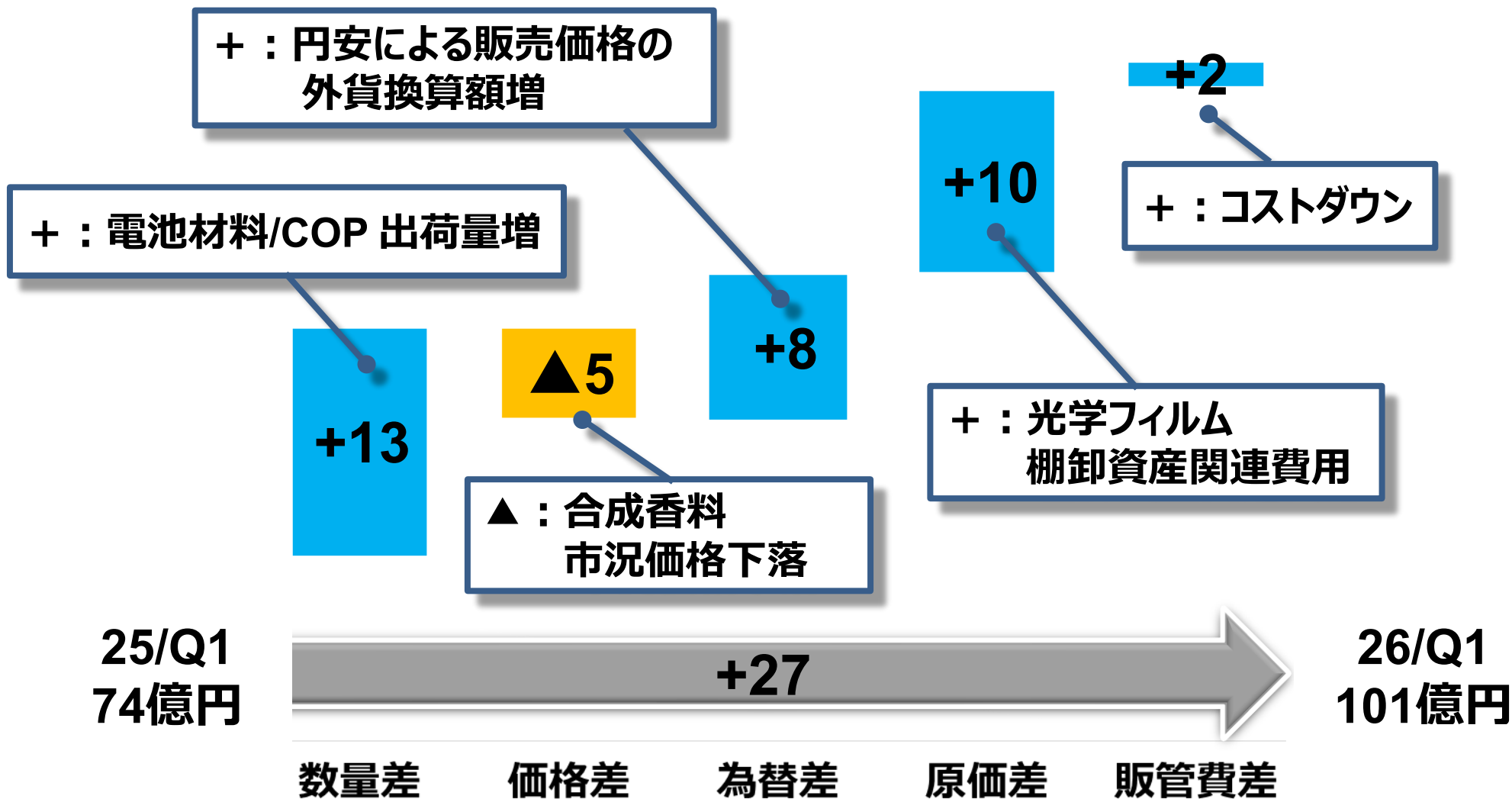
2026年度より合算して
「その他・消去」に区分

2023年度 2024年度 2025年度 2026年度

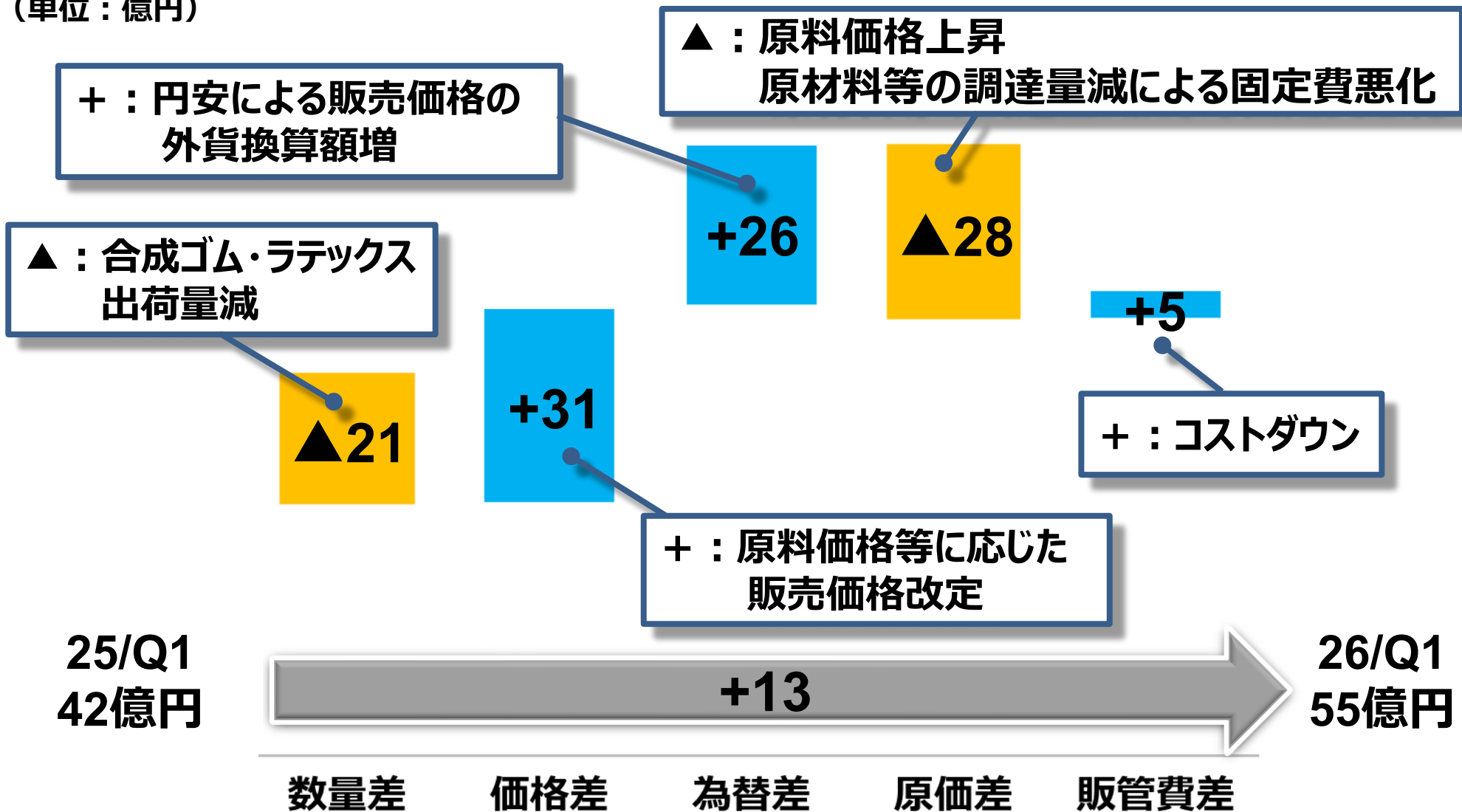
Q1

営業利益	205	293	364	163
高機能材料事業	132	176	224	101
高機能樹脂	73	139	175	68
高機能バインダー材料	44	22	42	26
高機能ケミカル	21	19	22	9
メディカル他	▲ 5	▲ 4	▲ 15	▲ 2
エラストマー素材事業	66	109	117	55
その他の事業、消去等	6	8	23	6

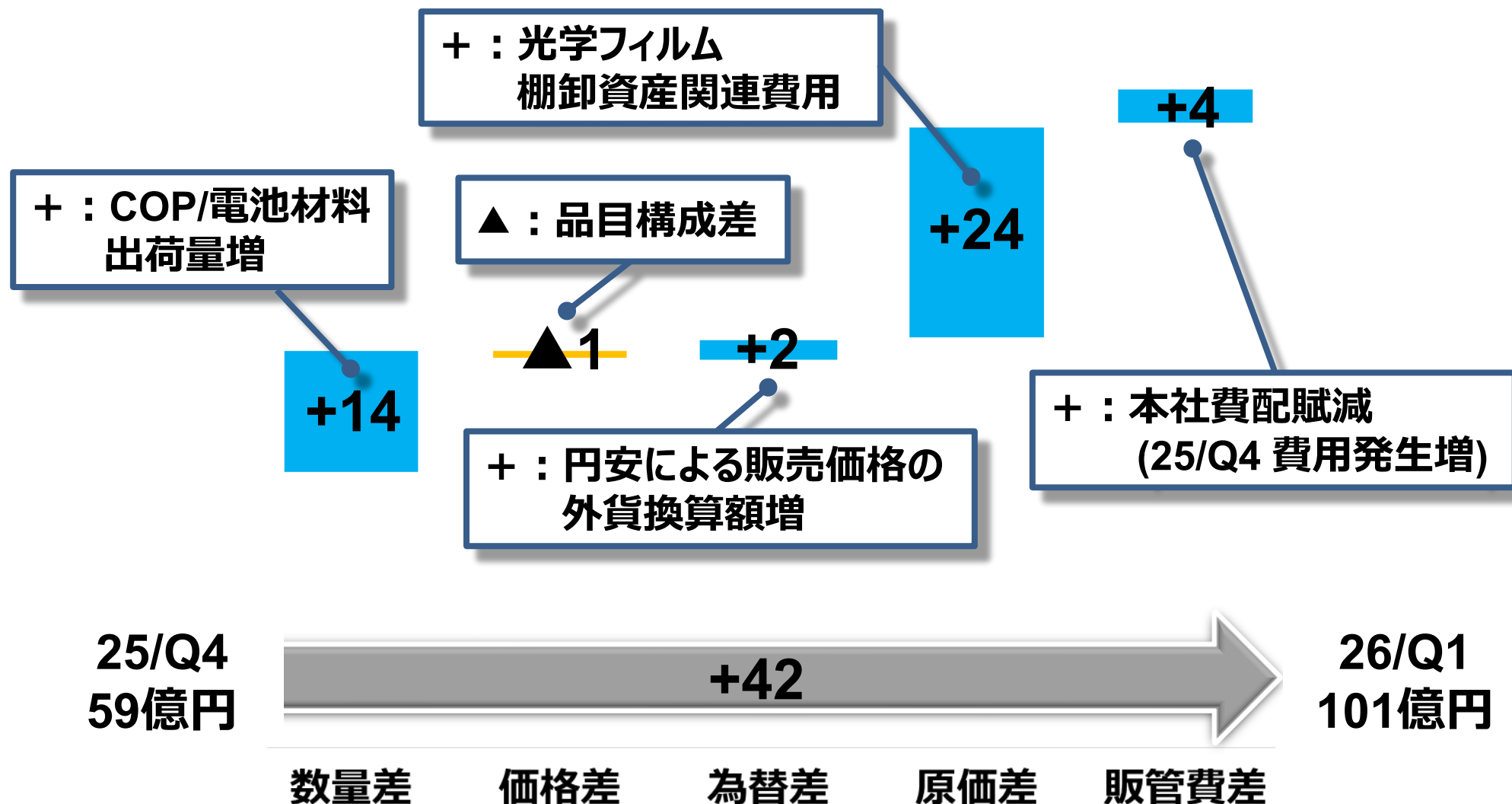
(単位：億円)



（単位：億円）

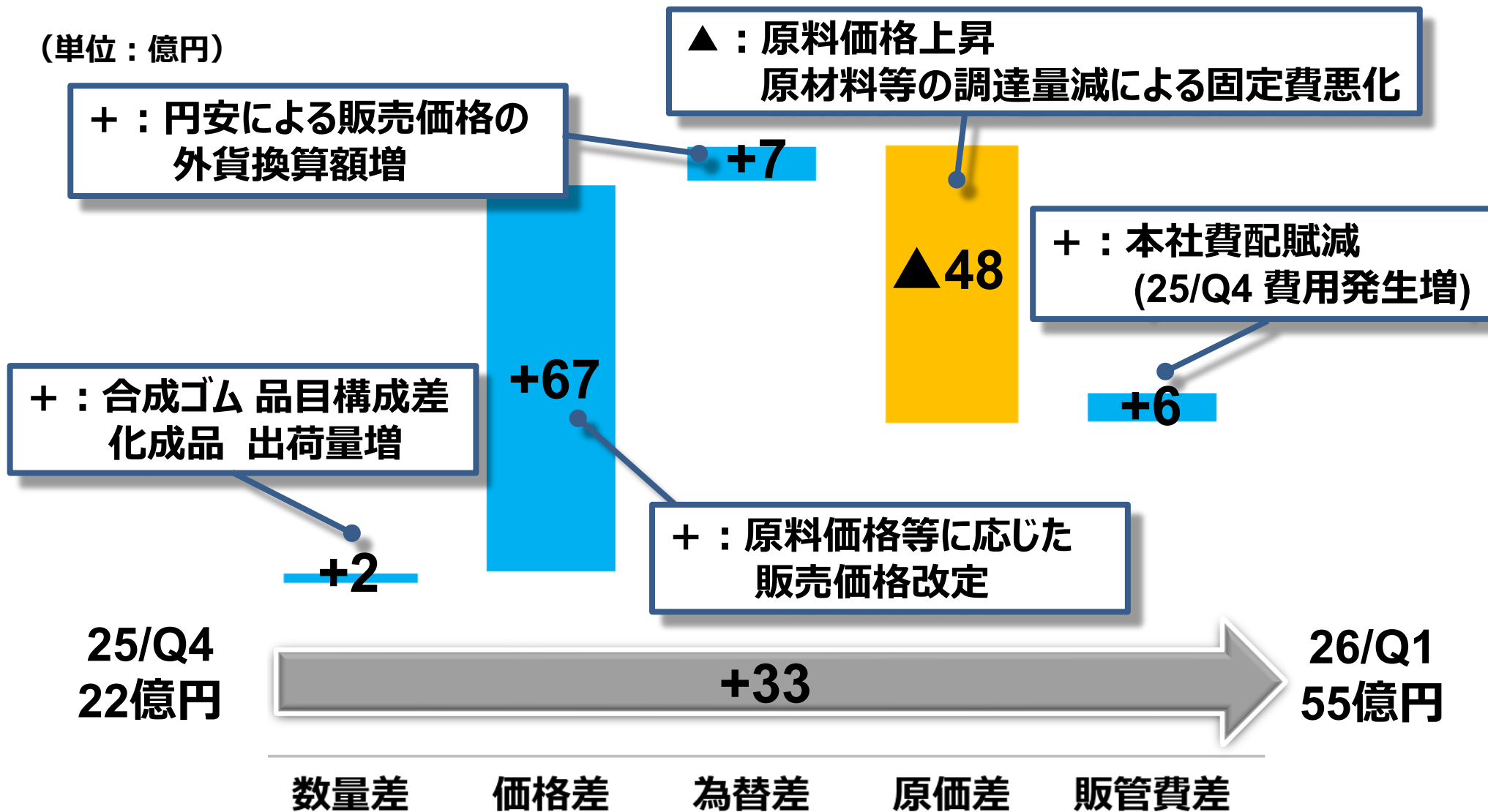


(単位：億円)



参考：エラストマー素材事業：要因別 営業利益差異（QoQ） ZEON

（単位：億円）



(単位：億円)

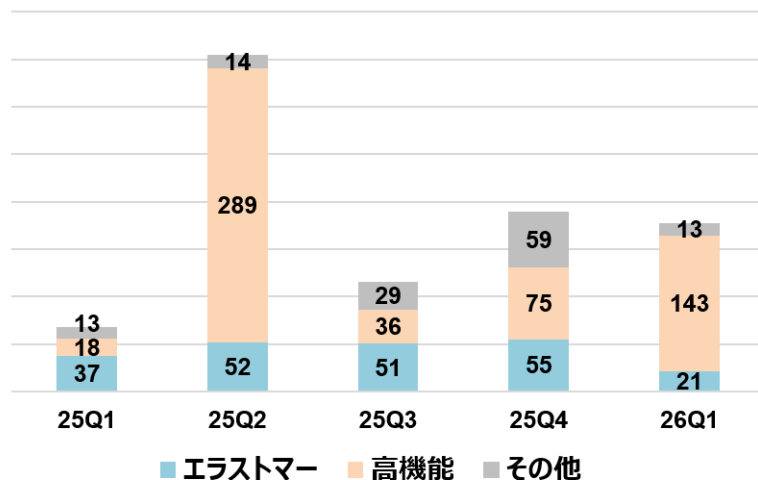
【営業外損益】	2025年度 Q1	2026年度 Q1	YoY 増減
受取保険金	0	13	+13
受取利息・配当金	11	11	-
為替差損益	▲ 9	5	+14
休止固定資産費用	▲ 1	▲ 2	▲ 1
貸倒引当金繰入額	▲ 1	▲ 1	-
支払利息	▲ 0	▲ 1	-
その他	▲ 1	0	+1
営業外損益合計	▲ 2	25	+27

【特別損益】	2025年度 Q1	2026年度 Q1	YoY 増減
固定資産処分損	▲ 1	▲ 1	-
減損損失	▲ 8	▲ 3	+5
その他	0	2	+2
特別損益合計	▲ 9	▲ 2	+7

参考：資本的支出、減価償却費の推移

(単位：億円)

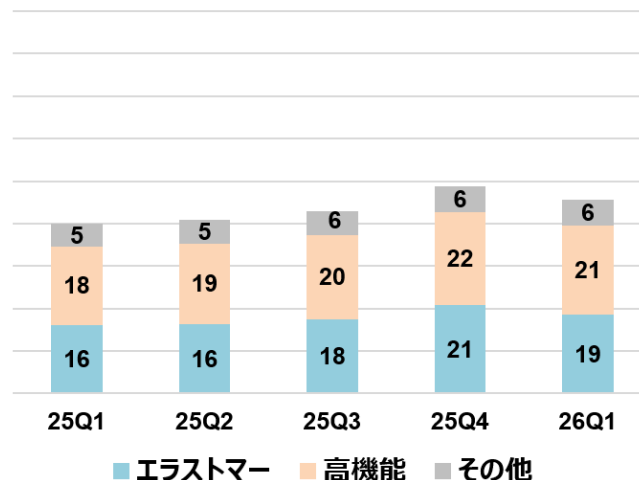
【資本的支出】



25年度実績
727億円

26年度予想
560億円

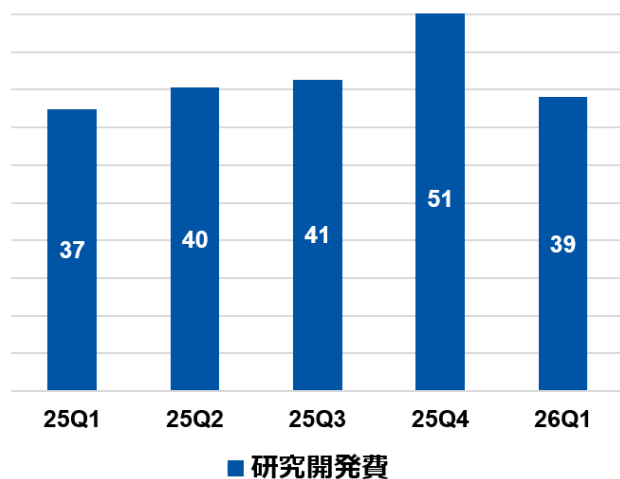
【減価償却費】



25年度実績
172億円

26年度予想
200億円

【研究開発費】



25年度実績
170億円

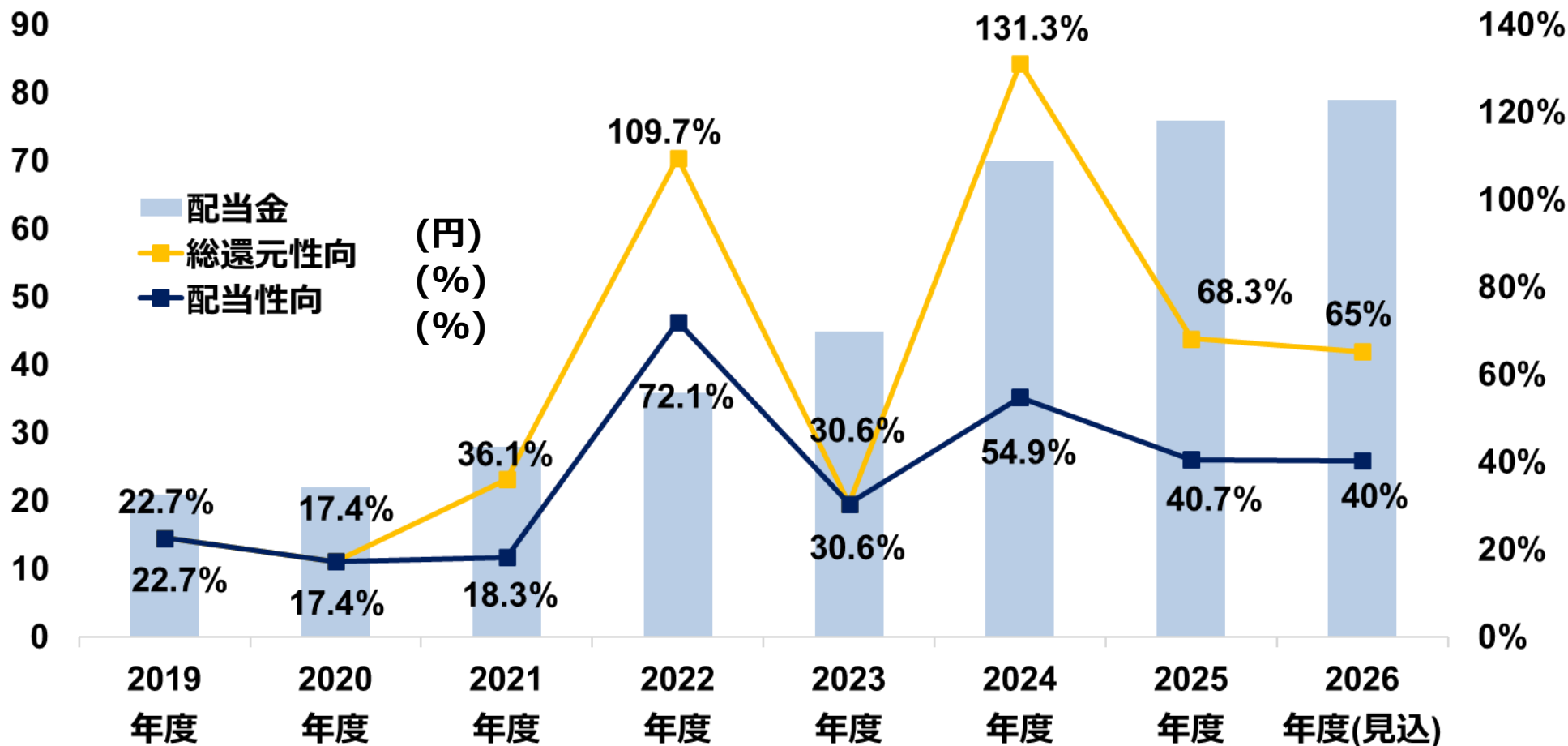
26年度予想
180億円

いずれも2026年度予想値を据え置く

- 2026年度配当性向は40%、総還元性向は65%と高水準を維持する見込
- 直近の配当利回りは3.57%（2026年7月24日終値ベース）

(単位：円)

(単位：%)



アップサイド

エンドマーケット需要の好調

為替の円安化

市況好調

円安ドル高

景気好況

円安ユーロ高

ダウンサイド

エンドマーケット需要の低迷

為替の円高化

市況低調

円高ドル安

景気後退

円高ユーロ安